

2022年10月27日(木)晴れ、暑からず寒からず丁度良い気候。10月中旬からぐずついた天気が続いて、ウォーク日和に恵まれなかったが、束の間の好天を捉えて出かけた。

今回のコースは比較的短い区間が多いので、茂原に一泊して⑭、⑮、⑯と3つのコースを連続して歩く。今日の⑭コースは内陸部を通り抜けて、やっと海が見えるコースとなっているが、はたしてどうだろうか？



バス停から道なりに200m程歩くと、今回の出発地点となる、案内板が置かれている



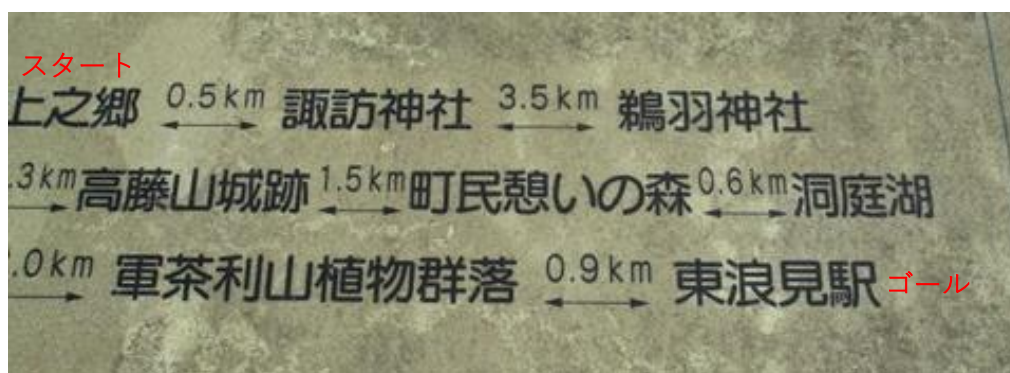
風化し始めて表面が剥げているが、仕方ないか、解説文を読んで出発(首都圏自然歩道連絡協議会)



茂原には 9:35 に着いた、バスは 9:50 発だからコンビニで弁当を購入して行こう



前回 10 月 2 日ゴールした睦沢公民館入口バス停で降りる



案内板には、距離が記述されているので分かりやすい。11.3km程となっている



まずは田圃道をたどって、諏訪神社に向かう



大同 2 年 (807) 平城天皇の砌、信濃の住人が諏訪明神の分霊を勧請したと、書かれている



樹齡千年の大楠が有名で樹高 23m、根回り 12mの大木。木が折れて文化財から外された



神社から本道に戻ろうとしたら、余計な脇道にそれてしまう、お賽銭を洗ったのがいけなかったか



神罰が下されてもそのまま歩いて行く。人もいない、民家もない、ここは「いすみ市」だよ



やっと上組と云う集落に着いて、道を確認してから、本コースの「表」と云う交差点に行く(40分ロスした)



本道に戻ってすぐ、鶴羽神社への案内に従って歩く



「鶴羽神社」豊玉姫の命、鶴茅葺不合命らが祀られている古い社と云う。上総国には古代からの社が多い



奥谷の集落を通り抜けて、標高 70m程の丘陵地に向かう



常総台地は太古の時代浅い海であったから、海が後退後、泥岩が露頭した崖が多い



比較的明るい森を抜けて行くと



山中の小さな集落に出る「松子の里」だと言う、陸の孤島と云ったら失礼だろうが、バスの便は無い



松子の里にも里程標が埋め込まれていた、自然を売りに何か仕掛けている



松子の里から 15 分程歩いて「洞庭湖」と名の付いた山中のため池に到着。



説明板によれば、江戸時代藩主が灌漑用に掘削したと書かれている



中国湖南省の洞庭湖(中国有数の景勝地)とは全く違う。今日のコースの目玉として楽しみにして来たのだが、がっかりした。紛らわしい名前は付けないで欲しいね



林道の一部が途切れて海が見えた、唯一の「大海原を望めるみち」だったが、遥か彼方に何となく見える程度



なおも東に林道を下ってゆく、車が来ないから快適な遊歩道代わりとなっている



暑くもなく、寒くもなく丁度良い気候、もう海は全く望めない



林道を下ると東浪見(とらみ)集落に入って、「軍荼利山東浪見寺」門前が出る



さらに階段を上り続けると、標高 40mの小高い山の上に本殿はあった。山域全体が聖地として古くから保護されて来た



寺域の東側は太平洋に面し、西側は山を背負い、南方系と北方系の植物が同居する珍しい生態を有し



寺域一帯の樹林は、県指定の天然記念物に指定されている



「本堂」は、聖徳太子が軍荼利夜叉明王の木造を彫刻して安置したのが、開基とされる



鐘撞堂もある



手水鉢はもちろん江戸時代の作



この一帯は「房総の魅力 500 選」にも選ばれている



山を下りるとすぐ JR の踏切を渡る、外房線の東浪見駅に到着



東浪見駅は無人駅で何もない



15:34 分発に乗り、一宮で千葉行きに乗り継いで、今日の宿泊場所茂原に向かう



茂原は大きな町だからホテルはたくさんある、今日は駅前の宿に泊まる

[参考タイム] 茂原駅(9:50)→睦沢公民館入口バス停(10:25)→道間違える→表交差点(12:25)
→松子集落(13:15-13:20)→洞庭湖→東浪見寺(14:15-14:45)→JR 東浪見駅
(15:00-15:34)→茂原駅(15:47)

11.3km/3:00 であった この項完

関東ふれあいの道(千葉)「⑮九十九里の砂浜を踏みしめて歩くみち」に続く